

令和5年度第1回沿岸広域振興圏地域連携懇談会における御意見に係る対応状況

開催日時：令和5年7月24日(月) 午後2時～午後4時

開催場所：大槌町中央公民館 大会議室

No.	御意見	対応状況	
		所管部室	内容
1	<p>【内金崎 加代子 構成員】</p> <p>i-サポの結婚支援に関して、ロコミ・利用者の声も踏まえてスタッフの対応などを考えた方がよいと思う。</p> <p>また、共通の趣味など、参加しやすいイベントを考えてみてもよいのではないかな。</p>	保健福祉環境部	<p>i-サポの対応については、出会いを求める方々が気持ちよく利用できるよう、運営主体であるいきいき岩手支援財団と連携を図りながらよい方向に進めていきます。</p> <p>また、i-サポのほかに、振興局の予算を使い、今年度は釜石市と陸前高田市で婚活イベントを開催し出会いの場を提供しました。</p>
2	<p>【佐々木 康行 構成員】</p> <p>地域医療確保のために、人材育成やネットワークの連携強化のほかに、労働環境や処遇待遇を改善すべきではないかな。</p>	保健福祉環境部	<p>管内の医師、看護師及び助産師等の医療従事者の確保については、中、高校生を対象とした説明会の開催やパンフレットの作成・配布などの取組を進めているところであります。</p> <p>一方で、医療従事者の労働環境について、過度な超過勤務等が問題となっていることは御指摘のとおりであり、令和6年度以降の時間外・休日労働時間は、960時間の上限規制が適用されることから、県としても、上手な医療のかかり方や最初にかかりつけ医に相談いただくなどの普及活動等を行い、少しでも医療従事者の負担を軽減できるように取組を進めています。</p>
3	<p>【河野 通洋 構成員】</p> <p>太陽光や風力で発電した電力は、外部ではなく、地域住民や地域内の企業が活用できるような形を推進していくべきではないかな。</p>	保健福祉環境部、企画推進課	<p>県では、令和5年3月に改訂した「第2次岩手県地球温暖化対策実行計画」において、「省エネルギーと再生可能エネルギーで実現する豊かな生活と持続可能な脱炭素社会」を目指す姿として、エネルギーの地産地消の推進等に取り組むこととしております。</p> <p>また、令和5年6月には、「県市町村GX推進会議」を設置し、県と市町村の連携を強化し、市町村の計画策定などの取組の支援を行っていくこととしております。</p> <p>沿岸圏域では、宮古市が令和4年11月に環境省から「脱炭素先行地域」に選定され、エネルギーの地産地消などの取組が進められているところであります。</p> <p>振興局としても、先行事例の情報共有を含む市町村職員向けの勉強会の開催、脱炭素化施策に取り組む市町村の伴走型支援等を通じて、沿岸圏域のエネルギーの地産地消を含むGXの推進に取り組んでいきます。</p>

4	<p>【山本 泰子 構成員】 ナラ枯れにより、しいたけ生産者は遠いところから原木を運んでこななければならない状況であり、対策を講じていただきたい。</p>	農林部	<p>ナラ枯れについては、沿岸地域においても被害が広がっているため、被害監視を行うとともに、国庫補助事業や県単事業の活用により、伐倒くん蒸等を行い、拡大防止に取り組んでいます。</p> <p>今年度は、春の伐倒くん蒸約 202 m³、秋は約 318 m³（見込み）を実施するなど、被害の拡大防止に取り組んでいます。</p> <p>引き続き、被害対策について取組を進め、ナラ林の健全化を図っていきます。</p>
5	<p>【内金崎 加代子 構成員】 大槌サーモンを、事業者・飲食店も一緒に売り出していくため、手ごろな価格で流通されるよう支援いただきたい。</p>	水産部	<p>養殖サーモンについては、地元の加工事業者及び飲食店等に、より多く利用していただくよう、市町等と連携して取組を進めているところです。価格に関しては、餌や船の燃油代などが高騰する中、生産者が生産を継続できる価格形成が必要とされますので、県としては生産の効率化などの面から取組を進めていきます。</p>
6	<p>【竹野 牧子 構成員】 農林水産物について、沿岸圏域内外へ地元のをPRできる機会を増やしてほしい。</p>	農林部	<p>地元の農林水産物のPRについては、産直でのPR活動として、空港や駅構内の観光センター等に産直マップを配架したほか、産直情報をSNS等に掲載するなど、広域的な情報発信を支援しています。</p> <p>また、産直に協力いただき、各品目の売り上げ、来客数、気象関係などのデータを使い、天候、気温及び季節等で、来客数やどのような商品が売れているのか、といった分析を行い、生産・販売計画の改善につなげるよう、現在、分析を進めています。</p> <p>このような取組を通じて、地元の農林水産物をより知っていただく機会を増やしていきたいと考えています。</p>
7	<p>【椎屋 百代 構成員】 サーモンなどのPRのため、飲食店にて地元のを味わえる環境を整えていくことが大事だと考えている。</p>	水産部	<p>養殖サーモン等の飲食店での提供については、県事業により「いわて県産サーモンフェア」や「宮古の真鱈グルメフェア」を開催するなど、地元を含め利用の促進を図っているほか、釜石市ではサクラマスの地元飲食店での利用促進に向けた取組を進めているところであり、引き続き、市町等と連携しながら様々な展開を図っていききたいと考えています。</p>
8	<p>【椎屋 百代 構成員】 産直にて、加工品を販売する方がインボイス発行事業者として登録すると、栄養成分表示を必ずしなければならないが、特に高齢者は表示・計算の仕方等が分からない場合もあるため、支援をお願いしたい。</p>	保健福祉環境部	<p>栄養成分表示については、保健所には栄養士が所属しており、飲食店等に対する栄養表示指導を行っています。</p> <p>御相談があれば、対応させていただきます。</p>

9	<p>【河野 通洋 構成員】 大船渡の5月の有効求人倍率が0.73まで落ち込んでおり、雇用の幅をつくっていかなければならない。</p>	産業振興室	<p>毎月、公共職業安定所や市町村の関係者と情報交換を行っており、引き続き、地域の雇用情勢を注視していきます。雇用面では、高校生の全体数が減ってきており、大学生採用等も視野に考えていかなければいけない状況であり、沿岸局としましては、今年度、地域経営推進費を活用し、大学生雇用に向けた企業のプレゼン能力を高める事業（9/25、11/15実施）や、専門人材確保のためのセミナーを実施する事業（9/21実施）に取り組みました。</p>
10	<p>【河野 通洋 構成員】 観光について、仙台駅や仙台空港等でPRをしたり、出展ブースで売りに行ったりなど、外向けの戦略により、外からのお金の流通を生むことが必要だと思う。</p>	産業振興室	<p>令和6年1月～3月に、冬のJR重点販売地域キャンペーンが展開されます。振興局としては、昨年度から、SNSを活用した観光キャンペーンを実施し観光の誘客を図っており、今年度は、道の駅のみならず観光・宿泊施設などにも協力いただきながら、JR重点販売地域キャンペーンの時期に併せて12/8～2/21の期間、同様の取組を実施中です。</p> <p>外向けのPR発信は、昨年10月からインバウンド解禁になり、台湾旅行会社及びメディア招請ツアーの現地視察対応や県内の世界文化遺産等を会場に「2023年に行くべき盛岡・岩手宝探しの旅」（9月～10月実施）を開催したところです。首都圏からの誘客は、東日本大震災津波伝承館をゲートウェイとして誘客や周遊を促進するため、東京の旅行エージェントに訪問し、三陸の魅力や優遇策なども説明しながら、三陸鉄道(株)やバス会社と連携して取り組んでいます。県外での観光PRは、大阪のツーリズムEXPO（10/28～29実施）に出展し、JR重点販売地域キャンペーンの前に、三陸DMOセンターと県北局との連携により、三陸沿岸の広域的なPRに取り組みました。</p>